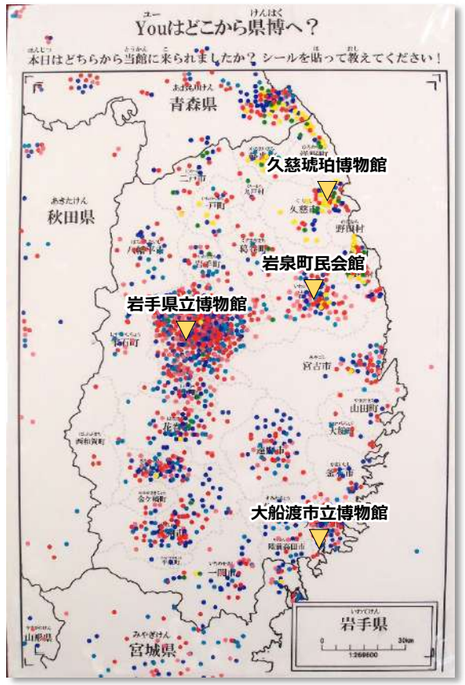
また、今回の巡回事業では、各会場に岩手県近郊の白地図を用意し、来場者がどこから来たかシールで示してもらう調査を実施した。岩手県立博物館（盛岡市）での実施では内陸部を中心に来場者が集まっていること、その他の各会場では周辺地域はもちろん、県をまたいだ周辺地域からの来場もあることなどが確認できた。また、高速道路沿いのアクセスがよいところであれば、多少の遠方であっても来場する傾向も見られた。

全ての会場の結果を重ねたところ、巡回することで特に沿岸地域の人々に博物館事業を届けることが出来たことが分かる。この手法は、事業がどの程度の範囲に波及効果があったかを図る一つの手法として有効であると考えられる。



来場者調査パネル（４館の合計）

● 事業 2　地域博物館での研修事業の開発と試行的展開

北海道と沖縄という、地理的な条件からなかなか研修の機会の少ない地域において、博物館関係者向けの事業を実施したところ、参加者からの満足度は高く、こういった研修の需要を改めて確認できた。またワークショップ式の本研修が、学芸員やボランティアなど、博物館関係者同士のコミュニケーションを触発する場としても有効であるということも改めて確認でき、新たな学芸員研修プログラムの開発と実施を通じてモデルプログラムを確立できた。

【実施実績データ等】

・「博物館辞典をつくろう」（3施設、16名）
・「サイエンスコミュニケーション入門講座」（9施設、18名）
・博物館関係者を対象とした研修の重要性：回答者全員が重要と回答

※アンケート抜粋
「展示解説やコーナーのリニューアルなどに特に有効と感じた」
「研修だけでなく、自分達の事業としても活用できそう」
（「博物館辞典をつくろう」）
「新しい企画を考えるときのフレームワークとして有用」
「職員の少ない地域博物館にとっては、グループワークによって参加者とのネットワークができた点も収穫である」
（「サイエンスコミュニケーション入門講座」）

課題と今後の展望

● 地域の事情を踏まえた展開

岩手県とのモデル的な連携実施については、評価WG委員から一定の評価を得たが、一方で、各地域によって博物館同士や地元とのつながりの状況が異なるとの指摘もあった。岩手県についてのフォローアップもさることながら、今後の他地域での展開にあたっては、各館の置かれている状況を踏まえながらの展開を行っていく。

● 研修事業のブラッシュアップと実施体制の検討

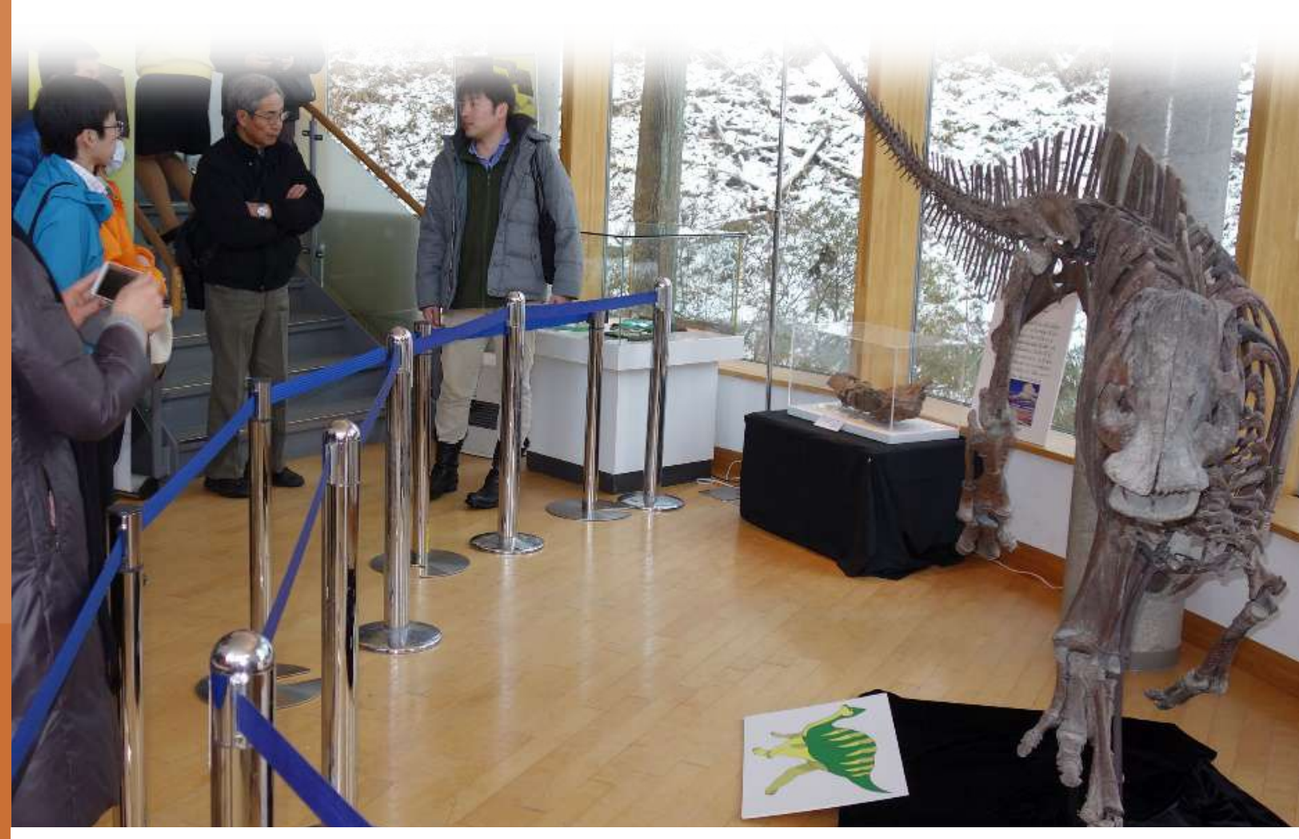
今回の事業により、各地域の博物館に国立科学博物館の持つノウハウを提供できただけでなく、国立科学博物館にとっても実施実績を蓄積できた。新たに開発した研修プログラムは、今後も実施件数を増やしてブラッシュアップしていくことが必要である。また国立科学博物館の人的資源も限られるため、一度受講した者を研修実施側に強力してもらうなど、事業の実施体制についての工夫が今後必要である。

● 成果のさらなる発信・普及

本事業の成果の一部については、全国科学博物館協議会において博物館関係者に対し発表したところであるが、その他の成果を含め、さらに各地域の博物館へ広げていくべく、今後も博物館関係の学会・協会や各地域の博物館協議会などを通じて、広く全国に事業成果の発信・普及を進めていく。

帯広百年記念館での研修受講者と一緒に

独立行政法人国立科学博物館　博物館等連携推進センター



平成28年度文部科学省委託事業
「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」

「巡回展示とプログラムを通じた地域資源の連携・活用促進事業」成果報告

事業連携機関・実施場所
巡回事業：岩手県立博物館、岩泉町教育委員会、大船渡市立博物館、
久慈琥珀博物館、三陸ジオパーク推進協議会
研修事業：帯広百年記念館、沖縄県立博物館・美術館

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

平成28年度文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」

「巡回展示とプログラムを通じた地域資源の連携・活用促進事業」

取組概要

● 事業概要・目的

地域の中核的な博物館と国立科学博物館が連携し、それぞれの有する博物館資源を活用した巡回展示を行うだけでなく、研修・学習プログラムを重層的に展開することで、地域博物館の活性化や、地域博物館同士、地域博物館と地元のネットワークの活性化を支援し、博物館の振興を図ることが本事業の目的である。

具体的な取組として、①地域博物館ネットワーク活性化のための巡回事業を通じた地域連携の実践　②地域博物館で実施できる学芸員研修プログラムの開発・試行　の大きく分けて二つの枠組みで実施した。

● 事業 1　巡回ミュージアム in 岩手

モデルケースとして、岩手県立博物館との連携を軸に、岩手県内の巡回事業を展開し、県内博物館同士や、博物館以外の団体との連携を深めることで地域博物館の活性化を図った。展示については、地域博物館が所有する県内の重要な地層や化石など、地域資源を活用した巡回をおこなった。

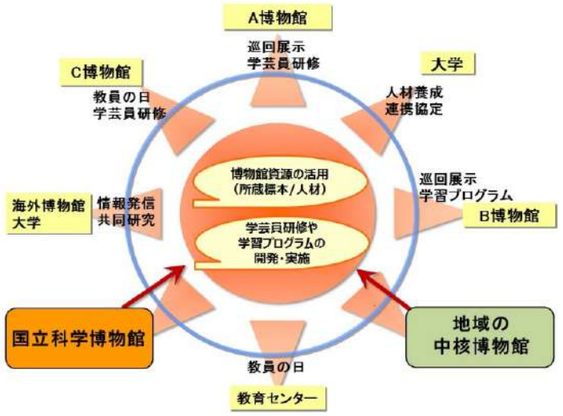
※岩手県立博物館における展示は、「国立科学博物館・コラボミュージアム」として実施。

事業1を実施するにあたっては、当該地域で中核となる博物館があること、当該地域をテーマにした展示を直近で検討していることなどから、岩手県立博物館との連携を軸として、展示テーマとあった展開が可能な県内の博物館等との事業連携を行った。

また事業2については、地理的な要因もあって東京等で実施される学芸員向け研修の受講機会が乏しいものの、地元での研修であれば自館のみならず周辺の館も含めて受け入れられるという協力館として、帯広百年記念館および沖縄県立博物館・美術館での実施となった。それぞれの地区で、異なる内容の研修を試行的に実施した。

● 事業 2　地域博物館での研修事業の開発と試行的展開

研修受講の機会が少ない博物館関係者を対象に、地域博物館において、博物館関係者の資質向上とネットワーク構築のための研修を開発し、試行的に実施した。



博物館の連携協働による地域博物館ネットワーク活性化のイメージ

● 事業の特長・工夫

事業 1　巡回ミュージアム in 岩手

①県博を中心に巡回参加各館の地域資源を活用した巡回展示

県内の貴重な地層や標本を主軸とした地質展示「進化の影と光」を県博中心に検討し、巡回各館において独自の展示物を加えて各館での展示を展開した。展示テーマが県内にスポットをあてたものであり、県民に対して改めて地域について伝える内容となった。

②国立科学博物館のノウハウの地方展開

教員のための博物館の日や、化石のレプリカ作り研修等、既に実績のある事業のノウハウについて、連携館と情報共有を図った。レプリカ作り研修においては、研修終了後に、参加者が自施設で事業展開できることを意識し、制作技術的な研修だけでなく、指導者側として一般向けイベントに携わる機会を含めた研修を行った。

③博物館以外の主体との連携

三陸ジオパーク推進協議会と連携してシールラリーを行うなど、つながりの少なかった主体との連携を模索した。観光客と直接接する機会の多いジオパーク関係者と博物館関係者が一堂に集って事業を行うことで、県内の新たな地域資源を活用したネットワークの醸成へと結びつけた。

会場及び会期	
岩手県立博物館	平成28年6月7日～8月21日 ※国立科学博物館・コラボミュージアムとして実施
岩泉町民会館	平成28年8月27日～9月11日 ※台風被災により途中閉鎖
大船渡市立博物館	平成28年9月16日～12月4日
久慈琥珀博物館	平成28年12月9日～平成29年2月26日

大船渡会場での展示の様子

事業 2　地域博物館での研修事業の開発と試行的展開

①研修を通じて、展示の「見方」の多様性を再確認

－アルバム辞典をつくろう！－

（帯広百年記念館　平成29年1月24日）

特定の「キーワード」をテーマに、「写真」という普段とは異なる視点で展示室をとらえ、そのとらえ方を参加者同士で共有し、展示の多様な見方を再発見するという研修を新たに開発し、実施した。

学芸員、ボランティアが参加し、被写体となった展示物について学芸員がコメントをすることで、展示に対する理解を深めるだけでなく、職員・ボランティア間の交流の場としても有効なプログラムとなった。事業終了後には、来館者向けのプログラム展開や、北海道地域でのプログラム普及について、意見交換がなされた。

②研修を通じて、自館の教育プログラムの目的を再確認

－サイエンスコミュニケーション入門講座－

（沖縄県立博物館・美術館　平成29年2月1日）

沖縄県内の博物館関係者を対象に、参加者の所属機関の教育プログラムを、対象年齢やねらいなどによって分類することで、各プログラムがそれぞれの機関の使命とどのよう関連づけられているかを見直す研修を実施した。

グループワーク形式で行うことで、自館のプログラムの見直しだけでなく、他館との比較・情報共有が行われ、各館での展開への参考にすることができる。また関係者同士のコミュニケーション促進によって新たな連携を生み出す場所としても有効となった。

作品を互いに紹介し合う参加者。意見交換を通じて、とらえ方の多様性を感じつつ、参加者同士のコミュニケーションを深める。

各施設のプログラムを二つの軸で分類していくことで、プログラムのねらいを明確化させる。

事業成果

● 事業 1　巡回ミュージアム in 岩手

アンケートでの定性評価より、県内の貴重な資料を活用した展示やプログラムを通じて、県民に県の有する財産に改めて関心を持ってもらうという目的は達成できた。

同時に本事業を通じて、今回参画した博物館関係者が、他館や学校等の博物館以外との連携を深めることができたかということについても、関係者に対するアンケート等から達成できた。

一方で、今回の事業はいわばキックオフにあたるモデル開発的な取組であり、今後の岩手県内の博物館等の持続的な連携につながってこそ、今回の事業の成果ということができる。実際に、教員のための博物館の日については、県博での継続実施や大船渡市立博物館での新規実施が予定されるなど、今回の事業の成果が事業終了後にも継承され、活かされている。

【実施実績データ等】

・実施4会場総入場者数：14,414名
　（各館前年度同時期比 115%）
・来場者満足度：96%以上が「満足」と回答
・県内資源に対する興味喚起：94%以上が「関心あり」と回答
・教員のための博物館の日（県博）：参加者数28名（新規）
・化石レプリカ作り研修：参加者数16名

※アンケート抜粋

「大きな博物館には出かけられないので、巡回ミュージアムはとても良い企画だと思います」
（巡回ミュージアム来場者）

「巡回展参加者同士のネットワークだけでなく、研修を通じてジオパーク関係者や観光関係者との関係を深められた」
（事業関係者）